

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 5 月 28 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K03094

研究課題名(和文)近代国家模索の歴史的な前提 18～19世紀、「極東」のなかの「日本」

研究課題名(英文)Historical Premises of Japan as a Modern State-Parliament and Territory in "Far East"

研究代表者

杉本 史子(山田史子)(Sugimoto, Fumiko)

東京大学・史料編纂所・教授

研究者番号：10187669

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文): (A) 近代国民国家論の基礎をなすT. ウィニチャックンのジオ・ボディの概念を、陸だけでなく海をも視野に入れた概念へと深化させ、国際的に発信した。(B) 19世紀の海洋情報の国際的共有体制のなかに日本も組みこまれており、独自の海洋知再編の試みがなされたこと、新政府の議会制度模索と並行して、これとは別の、洋学者主導の二院制議会在江戸で開設されていたこと、幕府評定所が近代的司法制度理解の前提となっていた一方で、その判決機能は機能不全に陥っていったこと、を明らかにした。(C) 江戸城を、一部都市空間と重なる分節化された政治空間と捉え直し、都市史と政治史の架橋を図った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本は、西洋世界から見ると、地球最後の未測海域に隣接する列島であった。「新しい海洋」の登場(「研究開始当初の背景」参照)と近代化過程とが、同時に、並行して進行した。この地域を研究対象とし、海陸関係の変容も含めて近世近代移行期像を再検討することは、西洋モデルの「国民国家の形成」像を相対化するものである。

国土の問題を、海洋を視座に入れて論じることは、こんにちの海洋国境問題の歴史的な前提の議論を学問的レベルで行なう糸口を提供することができる可能性を有している。

研究成果の概要(英文): (A) Further depth was added to T. Winichakul's concept of "Geo-Body" so as to turn it into a concept that takes into account not only the land but also the sea. (B) It was shown that in the nineteenth century Japan was incorporated into the international system for sharing maritime information and that Japan made its own attempt to reorganize its maritime knowledge; that during the Boshin Civil War there was established in Edo a bicameral assembly under the leadership of scholars of Western learning, concurrently with but separately from the new government's searching for a parliamentary system; and that while the shogunate's Judicial Council was a precondition for understanding of the modern judicial system, its adjudicating functions had become dysfunctional. (C) Edo Castle was reinterpreted as a segmentalized political space that partially overlapped with urban space, and an attempt was made to bridge the gap between urban history and political history.

研究分野：19世紀史 近世日本史

キーワード：議会 海洋 裁判 情報 海図 日本 国土 蒸気船

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

18～19世紀、イギリスにおいて海上での経度測量が実用化され、蒸気船の登場とあいまって、世界史における海洋の持つ意味は劇的に変化した。「新しい海洋」の登場である。このことが当時の日本に与えた影響について、秋月俊幸『日本北辺の探検と地図の歴史』(北海道大学図書刊行会、1999年)による先駆的指摘 伊能忠敬の陸上測量と堀田仁助の海上測量を連動してとらえるという論点 がなされ、横山伊徳(「19世紀日本の海上測量について」、黒田日出男、メアリ・エリザベス・ベリ、杉本史子編『地図と絵図の政治文化史』東京大学出版会、2001)は、海の地図作成と日本沿海測量の問題を外交史・軍事史へと開かれた議論とする可能性を開いた。

さらに杉本史子「新たな海洋把握と『日本』の創出 開成所と幕末維新」(『日本史研究』63、2015)では、西洋社会からみると地球最後の未測海域と隣接した島国「日本」にとっ ては、このような海洋把握とその情報の国際共有体制の問題は、国土把握・国際発信の問題とも密接な関係をもっていたことを明らかにした。

本研究は、このような成果の上に立ち、海陸を視野に入れ、国土観・議会制度・司法制度の面から、日本近代における国家模索の歴史的前提を捉え直した。

2. 研究の目的

本研究は、近代的憲法・議会制度に代表される近代国家の模索の歴史的前提を、近世後期～幕末期における政治社会の問い直しの動向のなかに探ることを目的にしている。この時期は、「新しい海洋」把握に基づくこれまでにない領土観・国土観が世界的に形成されてきた時期でもあった。本研究では、この情報が国際的に共有されるという状況の中で近代国家建設に向かった島国日本に注目し、近世後期の海洋認識・情報の実態を明らかにし、近代化の歴史的前提を、この海洋状況のなかで考察する。

3. 研究の方法

本研究では、近世後期の海洋認識・情報の実態の究明、幕府諸局の合議組織であり近代的議会を理解する前提となっていた評定所、幕末に西欧国制理解・外交交渉のうえで大きな機能を果たし始めた幕府開成所、および、政庁としての江戸城に注目し、関係史料の収集、分析を行った。

については、2018年度都市史学会WG「内湾研究会」と共催して、講演会2件を開催した。また2019年度は、東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター・海洋教育基盤研究プロジェクト(海洋学)「海洋知の再編と日本社会」と共催した。 については、あらたに発掘した評定所関係資料の翻刻を行った。 については、関係資料の所在調査を行った。 については、2017～2018年度東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター「江戸城図・江戸図・交通図および関連史料の研究」(代表・杉本史子)と共同し、さらに2018年度は、東京大学史料編纂所共同利用・共同研究拠点一般共同研究「江戸城本丸御殿平面図・間取図の収集と研究資源化に関する研究」(代表・小粥祐子)と共同、2019年度は「城・都市と危機研究会」(代表・杉本史子)と共同して研究活動を行った。

活動内容については、以下の二冊の報告書にまとめた。<1>『研究成果報告書』(東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター「江戸城図・江戸図・交通図および関連史料の研究」(代表・杉本史子)および同共同利用・共同研究拠点一般共同研究「江戸城本丸御殿平面図・間取図の収集と研究資源化に関する研究」)(全300頁)2018年度。<2>『東京大

学史料編纂所研究成果報告 2019 2 『変動期の政治社会と海洋知』(全 216 頁)2019 年度。

4. 研究成果

(1) 「新しい海洋」の問題と国土形成・国際的海洋情報把握

T.ウイニチャックンの「ジオ・ボディ」の考え方を、海陸を視野に入れた概念へと深化させた成果を、次のように国際的に発信してきた。○Fumiko Sugimoto, "Modern Nautical Charts and Geo-Bodies" (paper presented at the Third Global History Seminar Workshop: Sources in Global History, Institute for Advanced Studies on Asia, The University of Tokyo, January 28, 2017).○Fumiko Sugimoto, "Sea changes and the Geo-Body: the creation of 19th century 'Japan'" (paper presented at the Meiji Restoration and its Afterlives: Social Change and the Politics of Commemoration: Critical Reflections on the 150th Anniversary of Japan's Meiji Restoration. New Haven, Edward P. Evans Hall, Yale University. Sep.15-17.2017).○ Fumiko Sugimoto, "Political Cartography in the Tokugawa Period: The Shogun, the Intelligentsia, and Visual Representations of Territory" (オックスフォード大学出版会の "Oxford Research Encyclopedias" からウェブ公開予定)。なお、研究代表者・杉本史子がシカゴ大学から出版した、Karen Wigen, Sugimoto Fumiko, and Cary Karacas ed. *Cartographic Japan: A History in Maps* (The University of Chicago Press, 2016. 336pages)は第2版を重ねている。

同上について、日本語でも以下の論考を発表した。杉本史子「近代国家形成過程再考 新しい海洋の登場とジオ・ボディ」(ダニエル・V・ボツマン、塚田孝・吉田伸之編『「明治一五〇年」で考える 近代移行期の社会と空間』(山川出版社、2018年)PP.135-150。

シンポジウムの開催 杉本史子は、東京大学海洋アライアンス・イニシャチブの一環として、シンポジウム「領土・領海と島嶼」(2017年2月21日、東京大学理学部小柴ホール、講演 池内敏氏「竹島問題における島嶼の活用実態と領有権の主張」、高江洲昌哉「統合される島嶼と排除される島嶼」、西本健太郎氏「国際法における領海・公海概念の歴史的変遷」)を企画・開催し、島嶼をひとつのポイントとして、18世紀～20世紀初頭の領土・領海概念を問い直した。

(2) 海洋情報・海洋知再編について

海洋知・技術についての文理共同研究

【講演会】

シンポジウム「江戸城・江戸と水路」(本科研・都市史学会 WG「内湾研究会」共催、TOKYO ミナトリエ・海洋情報資料館、2018 年 8 月 8 日)
 研究報告：杉本史子「江戸城 江戸と水路についての覚書」、今井健三(元海洋保安庁海洋情報部)「海図から何がわかるか」、高橋元貴(東京大学大学院工学系研究科特任助教)「江戸城堀の空間構造と存続形態」、司会：後藤雅知(立教大学教授) コメント：多和田雅保(横浜国立大学教授)・岩淵令治(学習院女子大学教授)
 海洋情報資料館展示見学：「海図」・「海洋台帳」の閲覧)

「和船操船とセミナーの集い」(本科研・都市史学会 WG「内湾研究会」共催、東京大学三崎臨海実験所、2018年11月13日)

和船操船実習と施設見学

研究報告：安達裕之(東京大学名誉教授)「和船とは」、早稲田卓爾(東京大学教授)「櫓の推進機構について」

海洋測量・海防関係史料調査

前述「海洋知の再編と日本社会」PJ(「研究の方法」参照)と共同して、伊能忠敬に先立って蝦夷地までの海上測量を行った堀田仁助(2019年8月27・28日に島根県津和野町太鼓谷稻成神社ほかにて史料の調査・撮影)、幕府海防に携わり伊豆・小笠原諸島など島嶼行政を行った代官江川英龍関係史料調査(2019年12月3・4日および2020年2月5・6日には静岡県伊豆の国市江川文庫にて史料の調査・撮影)に着目し、その関係史料の研究資源化を図った。

津和野調査の成果は『東京大学史料編纂所画像史料解析センター通信』89号にて公表した。

成果の公開

以上の成果をふまえ、2018年度都市史学会大会で報告し、杉本史子「海洋空間と情報の幕末史 - 海図と船艦の19世紀」(『都市史研究』第6号、2019年11月、p91-100、および同「海洋知の再編と日本社会」ノート - 史料と研究視角」(『東京大学史料編纂所研究紀要』30号、2020年3月、p81~96)をまとめた。

(3) 近代国家模索の歴史的前提 議会・裁判

この問題については、主に、2018年に上梓した、杉本史子『近世政治空間論』(東京大学出版会、2018)のなかで成果を公開した。

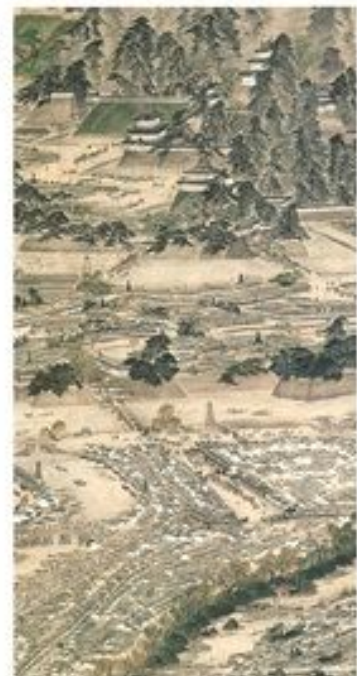
本書をめぐるのは、下記の書評・紹介がなされ、また、本書をめぐるシンポジウムが開催された。
○書評：山内昌之(武蔵野大学国際総合研究所特任教授)評「18 賢人が選ぶ日本史の新常識 65 冊」(『週刊文春』1/3・10号 2018年12月26日) <http://shukan.bunshun.jp/articles/-/10635>

○紹介：『史学雑誌 2018年の歴史学会 回顧と展望』(第128編第5号、2019年5月)では、『近世政治文化論』について、近世、近現代の両方にわたる研究成果として、以下の各項目で、取り上げられた。

http://www.shigakukai.or.jp/journal/index/vol128-2019/#back_05

<近世>・「四 近世後期政治史 幕政」の冒頭、「近世後期～幕末維新时期における評定所の裁判、社会情報の公開を担うメディア、新たな政体構想などをテーマに、空間論的視点を導入した政治史を提示する」(P115)・「十 文化・教育 書物文化」：「芸能や出版を「近世的公開メディア」として位置づけ、社会的な情報共有の動向を全体史のなかに位置づける」(P132)。
<近現代>・「二 幕末維新 政治」：「開成所会議・(徳川家)公議所という空間

杉本史子
近世政治空間論



について、諸史料を丹念に分析し、通説に修正を迫る力作」(p153)

- 「シンポジウム「日本近世の法と経済 杉本史子著『近世政治空間論』を素材として」(法制史学会東京部会第279例会2020年2月1日、東京大学東洋文化研究所3階大会議室):杉本史子「『近世政治空間論』と今後の課題」、大平祐一(立命館大学)「複合的國家の法と裁判」、松園潤一郎(一橋大学)「近世の裁判と合意形成」、高槻泰郎(神戸大学)「近世期市場経済における商秩序」
- 本書の紹介は、東京大学ビブリオプラザ(下記)においてオンライン公開中である。
<https://www.u-tokyo.ac.jp/biblioplaza/ja/>

(4) 近世政庁の政治空間的特質

近世の政権基盤となる江戸城、およびその惣構の前提とされる小田原城については、以下の共同研究活動を行った。

【史料解説】(<https://www.hi.u-tokyo.ac.jp/personal/fumiko/index.htm>にて公開中)

江戸城・江戸関係絵図解題シリーズ1(『東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信』第79号、pp.14-21、2017年10月31日)松尾美恵子(学習院女子大学名誉教授)・杉本史子「江戸御堀内図」、望田朋史・松方冬子(東京大学史料編纂所准教授)「朝鮮人来聘ノ節江戸席絵図」

○江戸城・江戸関係絵図解題シリーズ2(『東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信』第81号、pp.10-17、2018年4月)鈴木純子(元国立国会図書館職員)「慶長江戸絵図」、高橋喜子(お茶の水女子大学大学院博士後期課程)「江戸御城絵図」

江戸城・江戸関係絵図解題シリーズ3(『東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信』第83号、pp.8-15、2018年10月)藤田英昭(徳川林政史研究所研究員)「二丸向惣絵図」、吉成香澄(徳川林政史研究所非常勤研究員)「西丸大奥向惣絵図」

【史料調査】

東京大学史料編纂所(2017年10月24日)、古河歴史博物館(2017年12月11~13日)、国立公文書館(2017年12月19日)、東京都公文書館(2018年9月28日)

【現地踏査】第1回小田原城踏査 2019年6月5日、講師:佐々木健策氏(小田原城総合管理事務所)、第2回小田原城総構(沿岸部を含む)踏査 2019年9月27日、講師:佐野忠史氏(小田原市文化部文化財課)

【講演会・公開研究会】

「変動期を問う 江戸城と二条城」(東京大学福武ホール大会議室、2017年10月7日)齋藤慎一(江戸東京博物館学芸員)「中世江戸城の構造と変遷」、藤田達生(三重大学教授)「二条城と慶長期の国制」、コメンテーター:小宮山敏和(国立公文書館上席公文書専門官)国際歴史文化研究会・「城・都市と危機」研究会合同合宿(箱根湯本ホテル明日香、2019年9月27日)

研究報告:吉川紗里矢「小田原城総構と現存遺構の見どころ」、黒田慶一(韓國城郭學會會員・文化財石垣保存技術協議会会員)「豊臣大坂城の惣構について」、笠谷和比古(大阪学院大学教授)「惣構」論雑感」、杉本史子「惣構論ノート 政治史と都市史の統合」、平木實(元天理大学教授)「漢城(ソウル)の都城と晋州城」、郡司健(大阪学院大学教授)「大炮と攻城戦」、菊地智博(東京大学RA)「鉄砲稽古・火薬規制と『江戸十里四方』」、加納靖之(東京大学地震研究所)「小田原城と災害(地震)」

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 杉本史子	4. 巻 1
2. 論文標題 近代国家形成過程再考 新しい海洋の登場とジオ・ボディ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ダニエル・V・ボツマン、塚田孝・吉田伸之編 『「明治一五〇年」で考える 近代移行期の社会と空間』	6. 最初と最後の頁 135-150
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 杉本史子	4. 巻 6
2. 論文標題 海洋空間と情報の幕末史	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 都市史研究	6. 最初と最後の頁 91-100
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sugimoto Fumiko	4. 巻 72-1
2. 論文標題 Shifting Perspectives on the Shogunate 's Last Years : Gountei Sadahide 's Bird 's-Eye View Landscape Prints	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Monumenta Nipponica	6. 最初と最後の頁 1-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 杉本史子	4. 巻 3
2. 論文標題 政治社会の動きを描くパノラマ的広域鳥瞰	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 近世文学史研究 第三巻 十九世紀の文学 百年の意味と達成を問う	6. 最初と最後の頁 14-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sugimoto, Fumiko	4. 巻 -
2. 論文標題 Political Cartography during the Tokugawa Era : The Shogun, the Intelligentsia, and Visual Representations of Territory.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The Oxford Research Encyclopedia of Asian History (http://asianhistory.oxfordre.com/ 掲載予定)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 杉本史子	4. 巻 30
2. 論文標題 [海洋知の再編と日本社会] ノート - 史料と研究視角	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東京大学史料編纂所研究紀要	6. 最初と最後の頁 81-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菊地智博・佐藤賢一・瀬戸裕介・杉本史子	4. 巻 89
2. 論文標題 江戸幕府天文方堀田仁助関係史料調査報告	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東京大学史料編纂所附属画像史料解析センタ 通信	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

[学会発表] 計13件 (うち招待講演 5件 / うち国際学会 3件)

1. 発表者名 杉本史子
2. 発表標題 政治社会の動きを描くパノラマ的広域鳥瞰図
3. 学会等名 国際浮世絵学会大会 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 杉本史子
2. 発表標題 海洋空間と情報の幕末史
3. 学会等名 都市史学会大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Fumiko Sugimoto
2. 発表標題 Sea changes and the Geo-Body
3. 学会等名 The Meiji Restoration and its Afterlives(イエール大学)（招待講演）(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 杉本史子
2. 発表標題 近世日本政治社会における裁判の意味
3. 学会等名 Litigation in East Asia and the concept to law(ソウル大学)（招待講演）(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 杉本史子
2. 発表標題 裁判の政治史 複合的国制と「政治空間としての江戸城」から問い直すー
3. 学会等名 国際歴史文化研究会第6回合宿
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Sugimoto, Fumiko
2. 発表標題 Modern Nautical Charts and Geo-Bodies
3. 学会等名 The Third Global History Seminar Workshop: Sources in Global History, Institute for Advanced Studies on Asia, The University of Tokyo (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 杉本史子
2. 発表標題 問題提起：歴史のなかの領土・領海・島嶼そして海洋
3. 学会等名 東京大学海洋アライアンス・イニシャチブ 「小島嶼国研究会」主催シンポジウム「領土・領海と島嶼」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 杉本史子
2. 発表標題 近世日本の政治体制と裁判の特質
3. 学会等名 歴史と史料の会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 杉本史子
2. 発表標題 海洋知の再編と日本社会 19世紀「新しい海洋」のなかでー
3. 学会等名 東京大学海洋教育センター先端的海洋教育カリキュラム検討会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 杉本史子
2. 発表標題 惣構論ノート - 政治史と都市史の統合
3. 学会等名 国際歴史文化研究会・「城・都市と危機」研究会合同合宿
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 杉本史子
2. 発表標題 19世紀大老文書の史料集刊行と電子索引公開
3. 学会等名 東京大学史料編纂所 国際研究集会 「維新史料研究と国際発信」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 杉本史子
2. 発表標題 『近世政治空間論』と今後の課題
3. 学会等名 「シンポジウム「日本近世の法と経済 杉本史子著『近世政治空間論』を素材として 」法制史学会東京部会第279例会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 杉本史子
2. 発表標題 江戸城 江戸と水路についての覚書
3. 学会等名 シンポジウム「江戸城・江戸と水路」
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 杉本 史子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 394
3. 書名 近世政治空間論	

〔産業財産権〕

〔その他〕

杉本史子のホームページ
<https://www.hi.u-tokyo.ac.jp/personal/fumiko/index.htm>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	望田 朋史 (mochida tomofumi)	東京大学・史料編纂所・学術支援職員 (12602)	2017年4月～2018年3月
研究協力者	岩村 麻里 (iwamura mari)	東京大学・史料編纂所・学術支援専門職員 (12602)	2018年4月～2019年7月
研究協力者	吉川 紗里矢 (kikkawa sariya)	東京大学・史料編纂所・学術支援専門職員 (12602)	2019年7月～2020年3月